

いっせーのせ

発行 長坂ふれあいのまちづくり協議会・神戸学院大学ボランティア活動支援室

まちの気になる人、お店、場所・・・

学生と共に53年・・・

この人に会いたい!



学生マンション ImaTy オーナー
今井佐智子さん

ImaTyは1999年からスタートしましたが、前身の「今井学生寮」からは今年で54年目です。学生寮時代は、学生の意見を尊重しながら部屋の間取りを考えていました。また、親身になって対応することを大切にしながら、運営を進めてきました。

私はマンションオーナーの他にも何足ものわらじを履いていたため、学生とかかわる時間に制約がありましたが、会った時には挨拶をして、近況について話すように心がけていました。学生から実家の郷土料理をおすそ分けしてもらったこともあります。

53年間学生とかかわって、嬉しいことも悲しいこともありましたが、学生がいたからこそ、この街が活性化していると感じています。

取材 宮崎瑠希也 人文学部3年

磯部 翔 人文学部2年

溝脇 蒼生 人文学部2年



学生マンション。一人暮らしを楽しむ学生が増えている。全室設置のテレビ、ドアホンや共用部の防犯カメラなど、安心・安全、便利、快適な部屋の提供を心掛けている。



旧学生寮、現在はトラックルーム。男子寮は炊事場やトイレなど共同スペースだった。一人暮らしが寂しいと思う学生が多くて、同郷の学生と同室になったりしていた。

神戸学院生が気になる<まちの人>を取材してご紹介します。こんな人がいるよ、あのお店を紹介して！前から気になっていたんだけど不思議な場所があるんだ・・・ 情報をお寄せください！

2023年6月11日（日）、西神中央プレンティ広場と無印良品エキソアレ西神中央にて、「いつものもしもCARAVAN神戸」（主催：㈱良品計画・神戸市西区）が開催されました。神戸市西区総合防災訓練との合同開催です。約6000人の来場者があり、5か所以上のブースをまわったスタンプラリー達成者は200人と盛況な防災イベントとなりました。

「いつものもしもCARAVAN」は全国で行われており、地域によって異なるテーマで実施されています。今回は、企業である良品計画と行政の西区役所が共催で実施するという初の試みです。防災を通じて「地域の人⇄行政⇄企業⇄学校」の継続的なつながりを生み出すことを目標にしています。

神戸松蔭女子学院大学&いづよね

いつものもしもの時の食生活の楽しみ方。

神戸松蔭女子学院大学人間科学部都市生活学科の青谷ゼミは、食と地域のブランドマーケティングの研究をされています。

今回は卒業生が就職された明治22年創業の「米屋いづよね」と合同で、お米の食べ比べ、ミネストローネの試食、災害の体験談やクイズを行いました。

お米の食べ比べでは、賞味期限が長く常温で保存できる非常食を試食でき、中でもいづよねスタッフの深瀬麻衣さんがオススメするドライカレーとエビピラフは、水のみでの調理でも柔らかくておいしいお米を食べることができます。他に塩やカレーも販売しておられました。

ミネストローネは「災害時でも暖かくて食べやすく、栄養を吸収しやすいものを食べてほしい」と、栄養が豊富な旬の野菜やベジブロス（捨ててしまう野菜のヘタや皮を出汁として使用）に着目し、野菜を育てて食べて土に還すサイクルができるレシピをゼミの学生が考案しました。試食は好評ですぐになくなったそうです。試食を担当していた大内莉里さんは「考案したレシピを喜んでくださって嬉しいです」と話しておられました。



非常食の試食は大好評

神戸市水道局



災害時に駆けつける給水車

人が生きていくためには水は不可欠です。災害時、給水車が給水活動を行います。全ての場所に駆けつけることは不可能です。そこで各区には「災害時給水拠点」が設置されています。地域の防災福祉コミュニティが中心となって、拠点の活用がさらに進んでいってほしいとおっしゃっておられました。

水道管も地震に備えて耐震化を行うことが重要です。たとえば水道管を網目のようにすることによって一部の水道管が壊れても他の水道管を経由して水を届けられるように配慮されています。



災害時の給水マップ



水道としんさい
(神戸市水道局)

CARAVAN神戸」に参加して

スターライト工業

阪神・淡路大震災をきっかけに、神戸市と共同で災害用備蓄トイレ「クイックハウス」を開発されました。従来のテント式トイレとは違って丈夫で安心・安全、組み立てが簡単、非常時以外はコンパクトに収納可能なものです。東日本大震災の際には実際に使用され、被災地でとても重宝されました。

携帯用トイレも開発されていて、他の携帯用トイレは排泄物を凝固させるのに20～30秒程度かかりますが、これは約5秒で凝固するという画期的なものです。また、材料には自然由来のバイオマス素材を使っているため環境にも優しいものとなっています。

災害時、避難所の開設後にすぐに必要になるものはトイレです。トイレが使用できないと水分や食べ物を摂取することを我慢してしまうため体調不良に陥るといったケースがあるので、災害時のトイレ環境の重要性をイベントを通じて知ってもらいたいとのことでした。



「クイックハウス」展示の様子



クイックハウス&
マンホールトイレ



災害備蓄トイレ

生活協同組合コープこうべ

コープこうべは、ポリ袋を用いた炊飯体験を神戸学院大学栄養学部の伊藤智研究室と合同で「BOSAIキッチン」として実施されていました。防災食を学習する学生と合同で活動することで、専門家監修の防災キッチン体験を参加者に楽しんでいただくことがねらいです。過去にはオンライン講座も実施されていました。

イベントの参加者は防災への意識や知識量が異なるからこそ、誰でも参加できる体験を通して、より多くの人に防災への関心をもっていただければと願います。



コープこうべと神戸学院大の共同ブース

(学生記者)

神戸学院大学ボランティア活動支援室学生スタッフ
宮崎 瑠希也 人文学部3年
山口 美祐 人文学部3年
吉田 颯真 経済学部3年

長坂ジュニアチーム防災学習会

6月18日、長坂地域福祉センターにて、長坂ジュニアチーム(長坂小学校4～6年生)の防災学習会が実施されました。神戸学院生が講師を務めました。

小学生は大学生と協力して、物干し竿やコップ、懐中電灯など身近にあるもののイラストが描かれたカードを組み合わせて、災害時の問題を解決するゲームを行いました。身近にあるものが災害時に役立つことを学んでもらうことがねらいです。

6年生の児童は「カードを使って話をして、色々な方法を考えていくことはとても楽しかった」と感想を述べました。



班に分かれて、解決策を話し合う小学生と大学生

人・地域のつながりを軸に、防災力強化を

長坂ブロック防災訓練開催のお知らせ

日時 7/23(日) 10:00~12:00

会場 長坂地域福祉センター（西区伊川谷町有瀬字栗林603-2）

※雨天のときは福祉センター屋内で開催します

TEL078-976-9373(電話は月、木、土曜9時~13時の間にお願いします)

今年2月の総合防災訓練では、神戸学院大学から20名がスタッフとして参加したのをはじめ、中高生や児童など多数の若者が参加、世代を超えて活気のある訓練となりました。

「いっせーのせ」紙面に見られるように、長坂では地域と大学の連携した活動が継続しており、防災マップ作成や防災訓練などは地域の貴重な経験となっています。

人の結びつきが希薄といわれる昨今ですが、防災訓練の経験をもとに、これからも長坂の特色を生かした防災活動を続けていきたいと考えています。

地域のみなさん、小中学生のみなさん、多数参加されますようご案内申し上げます。

プログラム(予定)

1. 消火訓練 消火器取扱法、放水訓練
2. 防災資機材点検と展示
3. AEDを用いた心肺蘇生訓練、簡易担架による搬送訓練
4. 「VR 水害、火事」視聴

※記念品進呈 参加者に防災用「ハイパワーライト」を進呈します。



大学生による防災クイズ



VRで水害の様子を体感する

主催:長坂ふれあいのまちづくり協議会

長坂校区防災福祉コミュニティ

防災情報誌『いっせーのせ』VOL.10

発行 2023年7月1日

発行者 長坂ふれあいのまちづくり協議会

神戸学院大学ボランティア活動支援室

連絡先 〒651-2180 神戸市西区伊川谷町有瀬518

神戸学院大学 ボランティア活動支援室

T E L 078-974-1551(大学代表)

E-mail kgu-vc@j.kobegakuin.ac.jp